

# 極薄10マイクロ実現

## 両面テープ 基材なく粘着剤のみ

日本紙管工業

旭区(日本拓央社長)は、

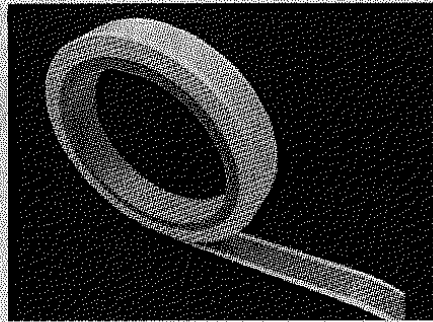
極薄の両面テープを開発した。基材層をなくし粘着剤のみで構成しているのが最大の特徴。これにより従来品の約半分となる総厚10マイクロを実現し

た。極薄化で製品への段差の軽減に寄与する強みを生かし、フィルム・箔の紙管への巻き出し工程向けに提案を積極化する。またテープ単独での販売を検討し、新規用途探索も課題と位置付け探

用増を狙う。

同社が昨年下半年に開発した「極薄両面テープ」は粘着剤のみで構成。両面テープは通常、約10マイクロのポリエチレンテレフタレート(PEE)フィルムを基材に粘着剤層を

表裏に設け、総厚20マイクロ程度となる。これに対し新製品はPEE層がなく約半分の10マイクロ。フィルムを紙管に巻き出す際に用いることを念頭に開発。極薄化で工程時のテープ段差を軽減でき、製品への段差痕の軽減に寄与する。銅箔巻き出しやフィルムラミネート工程などにも応用が期待できる。12マイクロ幅と24



表裏に設け、総厚20マイクロ程度となる。これに対し新製品はPEE層がなく約半分の10マイクロ。

フィルムを紙管に巻き出す際に用いることを念頭に開発。極薄化で工程時のテープ段差を軽減でき、製品への段差痕の軽減に寄与する。銅箔巻き出しやフィルムラミネート工程などにも応用が期待できる。

従来品の約半分の厚さ  
12マイクロ幅と24

マイクロ幅の2種を用意。長さは50、100マイクロとなる。色は製造工程で視認しやすい赤色を揃えた。なお製造は要求性能を満たせる専門加工メーカーに委託している。

同社はフィルム・箔の巻き出し工程向けに提案を積極化する。またテープ単独での販売も検討。建材分野など各種産業分野でも応用が見込まれることから、新規用途を探索する。

日本紙管工業は各種産業用紙管メーカー。フィルム用・テープ用・製紙用など幅広い分野に紙管を供給し、通信機器産業で用いる情報用紙・金属箔に対応した紙管の需要が高まっているという。今回の新製品はフィルム用紙管で用いる巻き出しテープに対し、要求性能の高まりをとりこんで開発した。